

2023年10月社長会見

1. 営業・輸送概況

2. 社会課題解決に向けたオープンイノベーションの取り組み

3. 特別な旅を創る新たな観光列車の名称およびデザインについて

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

収入ですが、9月はコロナ前の2019年比で79.9%、10月は21日までの3週間分で124.0%です。なお、2019年は10月1日に消費増税があり、増税前の先買いの影響等を除くと、9月は、97%程度、10月は99%程度となります。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同日比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
9月	122.2% (79.9%)	123.9% (105.2%)	130.0% (83.3%)	106.1% (61.7%)
10月 (10/1~21)	118.3% (124.0%)	116.4% (117.8%)	124.3% (104.0%)	108.8% (217.9%)

※実績は直営の速報値。駅などの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

※ () 内は、コロナ前の2019年同日比。

注) 2019年同日比は、2019年10月1日に消費増税があり、定期券や中長距離券を増税前に購入する傾向があったことから、10月の運輸取扱収入の2019年同日比は実勢よりも高くなっています。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況は、山陽新幹線は、9月が2019年比で91%、10月が21日までで98%。近畿圏は、9月が101%、10月が21日までで112%です。なお、10月は、2019年の台風の影響により、実勢より高くでております。

9月は、国内をご旅行のお客様のみならず、訪日のお客様にも支えられ、多くのお客様にご利用いただいています。10月は、初旬の連休が天候に恵まれ、新幹線・在来線ともに好調に推移しています。

これから秋も深まり、木々の色づきなど、季節を感じられる時期に入ります。引き続き、鉄道の安全安定輸送に努めるとともに、多くのお客様に楽しんでご旅行いただけるよう、グループ丸となって、取り組んでまいります。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同日比				
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏	
				近距離券発売枚数	自動改札通過人員
9月	136% (91%)	134% (90%)	151% (88%)	116% (101%)	111% (92%)
10月 (10/1~21)	126% (98%)	129% (180%)	134% (95%)	110% (112%)	107% (95%)

※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績と自動改札通過人員の前年同日比を併記。

※（）内は、コロナ前の2019年同日比。

2. 社会課題解決に向けたオープンイノベーションの取り組み

次に、「社会課題解決に向けたオープンイノベーションの取り組み」についてです。

当社グループはこの春「長期ビジョン2032・中期経営計画2025」を策定し、未来社会とその課題を見据え、将来にわたって新たな価値を創造する企業グループに進化すべく、様々なパートナーと連携したイノベーションに取り組んでいます。

その1つの柱として、当社グループが持つ技術やノウハウを活用し、鉄道という枠を超えて、世の中の課題解決を果たしていく「アウトバウンド型のオープンイノベーション」を推進しています。その中では、当社社員自らが、様々な企業の皆さまのもとへ赴き、それぞれの業界等の課題などをお伺いしております。こういった取り組みの中で、企業様それぞれが持つ技術を私どもと繋ぎ合わせて、最適なソリューションを提案し、課題の解決に導く活動も行っており、本日は、その取り組みを2件ご紹介いたします。

JR西日本グループにおけるイノベーション分野の基本方針とオープンイノベーション



これまでのイノベーション活動で築き上げた当社技術やノウハウ、社外ネットワークにより、社会課題解決を果たしていく「アウトバウンド型オープンイノベーション」を推進 鉄道の枠を超え、クライアント企業の課題に寄り添い、解決に導いていく

【東洋紡株式会社様への「AI 検品ソリューション」の導入】

1 件目は、東洋紡株式会社様の製造現場への「AI 検品ソリューション」の導入についてです。

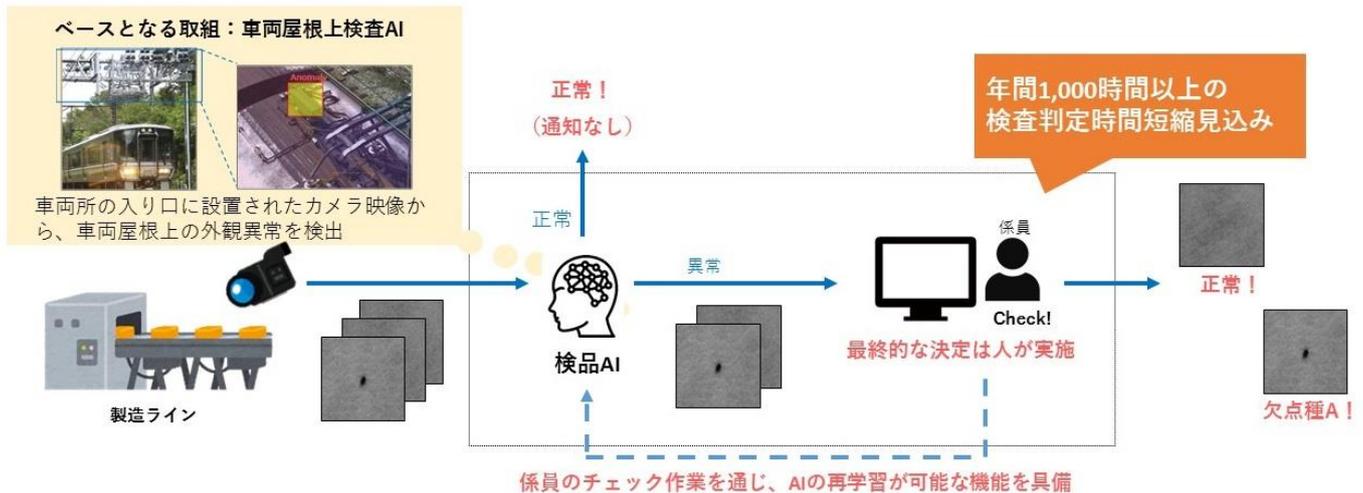
東洋紡様の製品には、主に、マスクやカイロに使用される「不織布」があります。この製造ラインの検品工程において、従来までは、製品表面の傷やゴミ等の介在を主に目視で検査されており、多大な労力や時間を要していることや、検品精度を向上させることが課題と認識されていました。

そこで、当社の一部の車両基地で活用している、車両の屋根上機器を検査する「画像解析AI技術」を応用し、製品の検品をAIが担うシステムの開発に向け、実証実験を行うこととしました。その結果、目視検査数を90%削減、年間約1,000時間もの作業時間削減を見込めたことから、この10月より、東洋紡様のグループ会社である東洋紡エムシー株式会社様の岩国サイトにて本採用いただくこととなりました。システム導入にあたっては、AIによる検品精度向上に必要な、「データ蓄積機能」や「再学習機能」を付与することで、ユーザーが容易に素早くAIモデルの修正を行うことができる仕組みとしました。

本ソリューションは、東洋紡様および、そのグループ会社での他の生産ラインへの水平展開をご検討いただいております。そのほか、同種製品を製造している他の企業様へのご紹介も開始しています。

○背景

東洋紡様の不織布生産ラインにおける検品工程にて、製品の表面上にある傷やごみ等の品質確認を係員による目視で最終チェックしておられ、多大な労力・時間を要していることや、検品精度を向上させることが課題



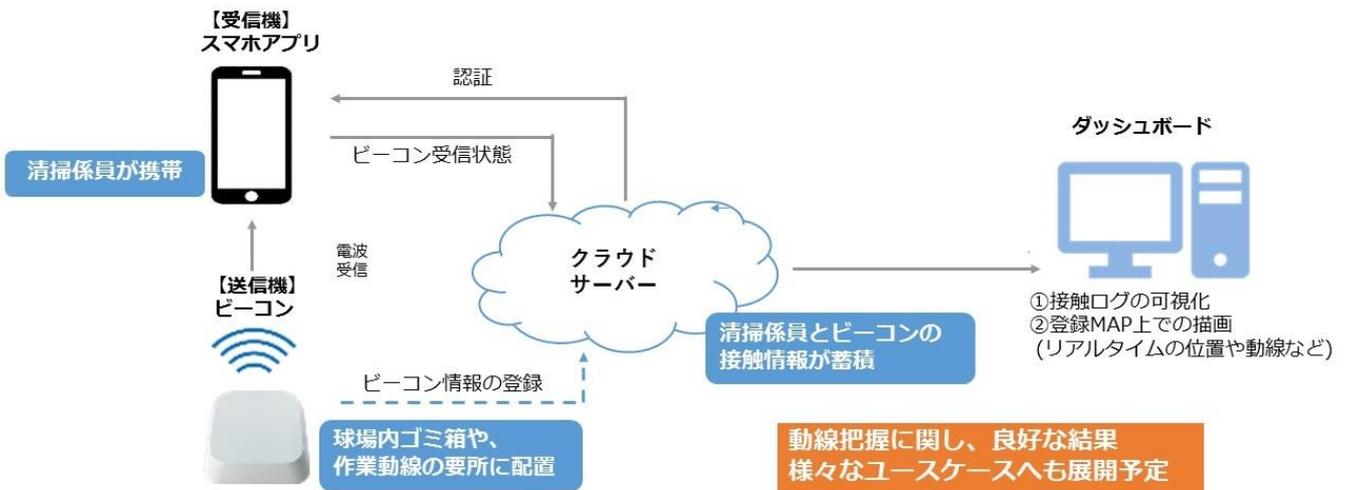
【エスコンフィールド北海道における課題解決への挑戦①～ビーコンを活用した清掃係員の動線の可視化・分析～】

この度、「アウトバウンド型のオープンイノベーション」の取り組みを進める中で、北海道日本ハムファイターズの新球場エスコンフィールドを保有・運営する株式会社ファイターズスポーツ&エンターテインメント様と連携し、2つの課題解決に挑戦しています。

1つ目は、球場内における、より効率的・効果的な清掃オペレーションの確立に向けた、「清掃係員の動線の可視化・分析」についてです。ここでは、兼ねてより株式会社ピークルー様と開発しておりました、ビーコンとその電波を受信するスマホアプリの組み合わせにより、その接触データを蓄積・可視化するシステムを適用しました。本実証実験は、球場内各所のゴミ箱にビーコンを設置し、受信アプリを起動したスマホを携帯した清掃係員が、どのような動きをしているのかを把握することを目的に実施しました。今回の動線把握は良好な結果であり、今後は、その動線を分析し、清掃オペレーションの改善に向けて、引き続き、検討を進めてまいります。

○背景

球場内の清掃係員の最適な清掃オペレーション確立に向け、株式会社ビークルー様と共同開発した、係員の動線分析を可能とする「ビーコンソリューション」を適用し、実証実験を開始



【「エスコンフィールド HOKKAIDO」における課題解決への挑戦②～画像解析 AI 技術を用いた来場者の安全性向上～】

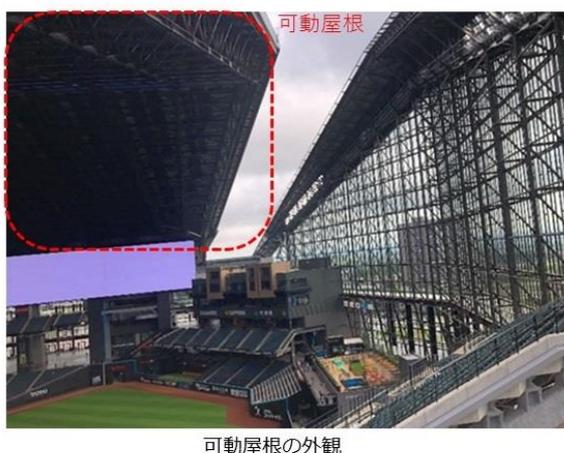
2つ目は、当社の「画像解析 AI 技術を用いた来場者の安全性向上」についてです。

エスコンフィールド北海道には、可動式の屋根が備えられており、天候や天然芝の育成管理のため、状況により、1日に複数回開閉させています。この屋根の開閉時には、可動部付近に係員を配置し、来場のお客様の安全確保に努めているものの、更なる安全性の向上と業務効率化が課題と認識されていました。

そこで今回、当社が保有する画像解析 AI 技術である「エリア立ち入り検知」を活用し、屋根可動部周辺のエリアに滞在する人の有無を検出し、必要に応じて緊急停止を促すシステムの確立を目指し、現地に当社の AI を搭載したカメラを設置し、検証を実施することとしました。

○背景

1日に複数回実施する球場の可動屋根の開閉時には、来場者の安全確保のため都度係員を配置していたが、更なる安全性向上と業務効率化に向け、JR西日本が保有する画像解析 AI 技術の導入を計画



エリア立ち入り検知機能を搭載した AI カメラにより、自動検出 + 遠隔監視、異常時には緊急停止を促す

今回ご紹介させていただいたものをきっかけとしつつ、引き続き、株式会社ファイターズスポーツ&エンターテイメント様との連携を推進するとともに、このような「アウトバウンド型のオープンイノベーション」に挑戦していきます。

【「第8回 鉄道技術展 2023」への出展】

これらのソリューションは、11月8日から10日に幕張メッセで開催される「鉄道技術展」へも出展し、ご紹介させていただきます。その他、画像解析AI技術を用いた様々な応用事例や機器の可動データ分析を通じた将来の故障予測など、当社の社会課題解決に資する技術をご紹介しておりますので、是非お越しください。

■開催期間：2023年11月8日(水)～10日(金)

■会場：幕張メッセ
(千葉県千葉市美浜区)

■弊社グループの最新情報や最新技術をご紹介

■出典予定のソリューションを弊社WEBサイト
「JRW innovation platform」に掲載



技術による社外の課題解決をさらに加速



【「イノベーション&チャレンジデイ 2023」の開催】

また、当社グループで、新たなビジネスの共創を目的に開催している、「イノベーション&チャレンジデイ」を、今年も、12月12日、13日の2日間、グランフロント大阪にて開催いたします。本イベントでは、当社グループの活動を広くご理解いただき、共に創り出すという意味での「新たな共創」を生み出す機会となるよう、オープンイノベーションとチャレンジについて、展示や講演をはじめとした様々なイベントを過去最大規模でお届けしたいと考えています。是非、多くの方に足を運んでいただくと幸いです。

■開催期間：2023年12月12日(火)～13日(水)

■会場：グランフロント大阪 北館 B2Fコングレコンベンションセンター
(大阪府 大阪市 北区 大深町 4-20)

■参加費：無料 (※事前来場登録制)

■参画企業：JR西日本グループ約30社

■実施内容

- ①パネル・実機展示、実機操作体験
- ②講演・パネルディスカッション
- ③課題先行型ピッチイベント
- ④その他(地域産品の試食会等)



Innovation & Challenge Day

JR WEST GROUP

2023 **12/12** Tue → **13** Wed

入場
無料

場所：グランフロント大阪北館B2F コングレコンベンションセンター

JR西日本グループのさまざまな領域にわたる新たな取組みや新技術・サービスを
体感できる展示会&講演会イベントを開催！

特設サイトはコチラ



2.特別な旅を創る新たな観光列車の列車名・デザインについて

次に、2024年10月に運行開始する新たな観光列車について、列車名とデザインの詳細が決定しましたので、ご案内させていただきます。

【新たな観光列車の概要】

昨年10月に概要をお知らせしましたが、地域のとおきという意味で「地域の華（はな）を列車に集めて、お客様と地域の縁を結ぶ列車」をコンセプトに、西日本各地を運行する新たな観光列車です。

第1弾は、北陸新幹線の敦賀開業後、来年10～12月にJRグループを挙げて開催する「北陸デスティネーションキャンペーン」に合わせて運行し、敦賀と城崎温泉を若狭・丹後地方を通して結びます。広域に観光していただくことで、敦賀開業の効果を広く波及させてまいります。



北陸DCに合わせ、運行開始
2024年10月～12月



北陸新幹線（金沢～敦賀）
2024年3月16日 開業



- ・地域の華（=とおき）を列車に集めて、お客様と地域の縁を結ぶ列車
- ・第一弾は、敦賀駅～若狭・丹後地方～城崎温泉駅
- ・第二弾以降は、エリアを変えながら、西日本各地を運行

【観光列車「はなあかり」】

列車名については、「はなあかり」といたします。地域に光があたり、地域が華やぐイメージを持たせ、様々な地域のとおきの「あかりを灯す」列車であることを表現しました。ロゴは、やわらかなタッチで列車の優雅さ、地域とのつながりを表現しています。



- ・地域に光があたり、地域が華やぐイメージ
- ・西日本の様々な地域のとおきに「あかりを灯す」列車であること、地域を明るくする列車であることを表現

- ・地域共生企業として、鉄道の強みを生かしたにぎわい創出をさらに推進
- ・西日本エリアでのリアルな体験、出会いの場を提供

運行エリアを変えて、お客さまと各地域を結び、地域のとおきを発信

続いて、デザインです。インテリアは、優雅な旅を楽しんでいただける空間としております。また、車内全体に日本の四季を彩る草花をモチーフとした華やかな和の色彩を展開しています。今回、新たに「スーパーグリーン車」という、グリーン車よりグレードの高い設備を設けました。よりゆったりと、特別感のある旅をお楽しみいただけるよう、3両編成のうち1つの車両に、2名用の個室を10室、配置しております。

- 優雅な旅を楽しんでいただける空間
- 日本の四季を彩る草花をモチーフとした華やかな和の色彩を展開

新設

スーパーグリーン車



- ・グリーン車よりグレードの高い設備を新たに設定（価格は未定）
- ・広くゆったりとお過ごしいただける個室空間（3両編成のうち1つの車両に、2名用を10室）

スーパーグリーン車



※図はイメージであり、実際の車両とは異なる場合があります

グリーン車(4名用BOX、2名用BOX)



グリーン車



デザイン監修：株式会社イチバンセン 代表取締役 川西 康之 氏

エクステリアは、袴などの紋付き染めで最高級とされる「檳榔子染め（びんろうじぞめ）」の色をベースとし、沿線の自然や風景、駅舎に映えるものとしています。また、列車の周囲には、金色でツタをあしらひ、地域とのつながりや、お客様との縁を表現しています。現在、同じルートで団体列車を運転するなど、地域の皆様と一緒に準備をすすめており、引き続き、交流人口の拡大や地域振興に向けて取り組んでまいります。約1年後の「はなあかり」のデビューを是非、ご期待ください。



Illustration, produced and designed by Yasuaki KAWANISHI + ICHIBANSEN/illustrations



デザイン監修：株式会社イチバンセン 代表取締役 川西 康之 氏

- ・車体カラーは、紋付き染めで最高級とされる檳榔子染め（びんろうじぞめ）の色がベース
- ・どこを走っても沿線や駅舎に映えるデザイン
- ・車両周りには、金色のツタで「地域とのつながり」「お客様との縁」が結ばれることを表現

※図はイメージであり、実際の車両とは異なる場合があります